

46 安西流馬医伝書 (安西流馬医絵巻)  
寛正五年 (一四六四) の補遺

松尾 信 一

横浜市

図録日本医事文化史料第二巻、日本医史学会一九七七年に掲載されている馬医絵巻物 (三井本) の補遺と追加内容について記す。

比較のため、信州大学農学部図書館所蔵の安西流馬医絵巻 (信州本) を用いた。信州本は天正七 (一五七九) 年に書かれ、宝永七 (一七一〇) 年に写されたものである。

三井本・寛政五 (一四六四) 年と信州本とはほぼ同型の安西流馬医絵巻である。

三井本には、信州本の巻頭の「五輪碎」の文字が欠損している。五輪碎は朱線の三角形の頂点に「五」、右底辺に「輪」、左底辺に「碎」の文字が筆記してある。

「五輪碎」に続いて五行の配当表が、三井本では五

臓・肝心肺腎脾の項は完全に欠損している。五行の項では、金水土の文字は一部破損。五季では冬土用が不完全。五色の黄の文字は一部破損。五根の舌の文字は破損、意の文字は欠損。五体の水と地の文字は欠損している。以下、五方、五千、五味は記してある。信州本では五行の配当表は五臓五行五季五色五根五体五方五千五味五腑の10項目が記してある。

三井本の五行の配当表に続いて以下のものが図示してある。すなわち、五輪塔、仏の手、馬体の背面解剖図、馬体の左側面図に針の経穴部位、梵字の阿字、五輪塔、馬体の腹面解剖図、馬の顔、仏の顔、馬の部片 (眼筋蹄鼻肉唇皮毛舌血乳歯骨耳)、馬体左側面色別図と、ここまでが日本医史学会発行の三井本に掲載してある。

一方、信州本には、さらに、文字による四季別「氣」の消長表、文字で表現した五輪塔、馬之五臓五本尊之事 (文字)、五臓と五行・五腑・五根その他の関連 (文字)、天・中・地の五形 (文字)、四季別五臓の病の予後判定 (文字)、馬の左側面の脚の針等九部位の図とその効果。馬の左側面上焦の針等一三部位の図とそ

の効果。次に巻末になり、安西流馬医術の由来と主旨、この巻物の伝承系路と継承者と日付で終っている。

各部位の調査の一部を記す。

巻頭の「五輪碎」について

橋本道派著『仮名安驥集』慶長九（一六〇四）年に「五輪碎」の項目がある。すなわち、

甲乙ニハ肝ノ臟ヨリ病発ス腑ハ胆ノ腑ナリ葉ニハ酸キ物ヲ本味トシテシハハユ鹹キ物苦キ物此ノ三ツヲ飼ヘシ甘キモノ辛キモノ敵味ナリ口伝アリ

丙丁ニハ心ノ臟ヨリ病発ス腑ハ小腸ナリ葉ニハ苦キ物ヲ本味トシテ甘キモノ酸キ物此三ツヲカ嚙ヘシ辛キ物シハハユ鹹キ物敵味ナリ

戊巳ニハ脾ノ臟ヨリ病発ス腑ハ胃ノ腑ナリ葉ニハ甘キ物ヲ本味トシテ苦キモノ辛キモノ此三ツヲ嚙ヘシ鹹キモノ酸キモノ敵味ナリ

庚辛ニハ肺ノ臟ヨリ病発ス腑ハ大腸ナリ葉ニハ辛キ物ヲ本味トシテ甘キモノシハハユ鹹キモノ此三ツヲ啗ヘシ酸キモノ苦キモノ敵味ナリ

壬癸ニハ腎ノ臟ヨリ病発ス腑ハ膀胱ナリ葉ニハ鹹キ物ヲ本味トシテ辛キモノ酸キモノ此三ツヲ啗ヘシ苦キ

モノ甘キモノ敵味ナリ、とある。なお、鹹と鹹は同義。

また、「桃山時代馬医解剖彩色絵巻物（東洋文庫蔵）」などにも「五輪碎」とは生死智秘伝也、阿は是則熱の形也、吽は是則寒の形也、とある。東洋文庫本の正確な年代不詳。

演者は五輪碎とは五行の五大要素の調和が碎かれて、馬が発病する意と考える。

信州本の末尾には、本巻物は「安驥集」60巻を10巻に要約したもので、寒熱の二病をよく心得て馬の治療に当たること。毎日毎日師に近づいて教を受け、毎晩毎晩工夫して修練しなければ、馬医の道の習得は難しいとある。

信州本の巻末に、天竺馬めみまう鳴菩薩—大唐三藏法師—日本粉川僧正—相伝十二継流—安西よち頼業—安西播磨守：安西千馬一伝などがあり、天正七年丁卯春十三日書之。丁卯は己卯。宝永七寅二月写之。以上で完了している。

なお、三井（一九六八）の「映像文化」29号には「安西流馬医絵巻」となっている。